

## 北九州産業労働研究會設立趣意書

今日の如き國際情勢、將又今日の如き社會情勢の眞に容易ならざる重大性に就ては今更喋々を要せざるどころであります。かくの如き祖國日本の非常時局に當面して我々労働者の使命も亦頗る重大なりと云はざるを得ません。

即ち資本家事業主も労働者も、共に利己心を捨て相協力して産業を守り業蹟を擧げて祖國に奉仕する事が日本國民として第一の任務でなければなりません。同時に其處にこそ、我々日本労働者の眞實の向上があり幸福が齎されるのであります。そのためには労働運動の根本精神の第一義は先づ「道義に基く公正なる勞資關係の確立」でなければならぬのであります。

我々の運動は自ら率先して日本労働者たるの自分を盡し、その迫力を以つて事業主をして覺醒せしめ其處に密きなき勞資融合の理想郷を現出して祖國のために奮起精勵するところにならねばならないのであります。

然るに北九州の如き日本隨一の工・礦業地を背負つて立つ我々労働者、殊にその心臓部とも云ふべき八幡製鐵所従業員たる我々にして省みて果して今日の如き狀態で前述の如き大覺悟が出来て居ると云へるでありませうか。

此の点に就いて先づ大いに反省を要するのはかの日本労働組合會議の如き陣營に我々製鐵所従業員の一部が即ちまたに關聯を持ちつゝある事實であります。日本労働組合會議の一派は多年、鬪争に次ぐに鬪争を以てし多數の労働者と産業の双方を犠牲として衣食して来た所謂職業運動者であります。彼等は最近時勢の變轉に迎合して産業協力等の言辭を弄するも雖も其本質に於て常に一方に我々労働者の利己心を煽動し而もその反面に於て資本家・事業主と特殊取引を行ふを職業とし、未だたる何等事業と關係なき市井の職業労働運動者であります。

組合會議の議長濱田國太郎君の如きは典型的職業運動者で、其の目的は組合たる日本海員組合を占據しその一味と共に多年、労働馬鹿貴族とも云ふべき醜態暴狀の限りを盡して来たのであります。而して諸君も新聞紙上等にて御承知の如く遂に今より四ヶ月前、同組合内部に蹶起したる正義の士によつて革正運動の火ぶたが切られ、昔、平家が渾／＼浦に滅びたるに等しく今や没落の深淵に陥んで徒らに戦慄しつゝあるのであります。

かくの如きは多年労働者の膏血を吸つて来たところの日本労働組合會議一派の職業運動者に對し天が下したる淨化の爆彈であつたのであります。

前述の如き濱田君を議長とする組合會議であるから他は推して知るべきのみであります。北九州に於ける組合會議派隨一の指導者某君(特に名を秘す)の如きはついで先頃或る重要な公開の席上に於て彼の赤色革命の流れを汲むメーデーを目して嚴肅なるべき觀兵式と同様の國際的行事なりと放言して恬然たる有様であつて、その輕薄、無恥、全く非國民と云ふも過言ではなく、いづれは從來の職業労働運動者の域を一步も出ないのであります。

我々製鐵所従業員は、製鐵所永遠の平和と我々従業員の幸福を思ふ時斷々乎としてかゝる一切の職業運動者の指導を排脱しなければならぬのであります。

而して我々は純眞なる日本主義労働運動に我々の實踐の據りどころを置き、自らの正義の實踐を通じて製鐵所首脳部の協力を求め先づ製鐵所内に眞に勞資融合の理想郷を築かんことを期するものであります。

同時に日本主義労働運動の發展を通じて北九州の主要工・礦業一齊に夫々の職場々々に於ける勞資融合の理想を實現せしめんため、同志相求め固き決意の下に精進努力を積まんとするものであります。

即ち、その眞剣なる精進努力の機關——これが道場としてこゝに「北九州産業労働研究會」を設立するものであります。

昭和九年十一月三日

明治節を卜して

假事務所 八幡市西本町七丁目

## 北九州産業労働研究會 設立準備會

直ちに第一回研究會を開く準備をして居ります。共鳴者は即時前記假事務所へ詳細御問合せ下さい。